

食育講演会が開催されました

11月2日に佐久合同庁舎で、「食育講演会」が開催されました。

この講演会は、佐久市生活改善グループ協議会、佐久市が主催で、郷土食を後世に引き継ぐための手法と心構えを学ぶことを目的に開催されました。当日は、会員や近隣のネットワーク御代田の会員約30名が参加しました。

講師の池田玲子さんは農業改良普及員のOBで、長年生活改良に取り組み、女性農業者のリーダー育成や食農教育の普及に尽力されてきました。現在も農山漁村文化協会に所属し、農村文化と行事食の伝承活動、「箱膳」による和食の伝承活動等、県下各地で活躍をされています。

講演では、「単に料理のレシピを教えることは誰でもできるが、食は農とつながっている。『種から口に入るまで』それを伝えることができるのは、今日集まっている女性農業者の皆さんです。」との話があり、女性農業者が担う役割の重要性をお話いただきました。質疑応答では、ネットワーク御代田の会員から「御代田町で料理集を作成しようと考えているが、どんな内容を盛り込んだらよいか？」との質問があり、「単なるレシピ集ではだめ。地域の文化や気候風土、材料となる農産物の生育過程等、あらゆる側面から食について調べたうえで作成してほしい」とのアドバイスをいただきました。

講演の最後には、池田さんから「佐久市も今までの活動実績をもとに、食と農の伝承に関する本を作成したらどうか？」との提案がありました。

郷土食の伝承については、協議会でも料理講習会を行ってきましたが、コロナ禍で中止を余儀なくされています。コロナが終息し、通常の活動になったときに、今回の内容を参考に、支援センターで協力していきたいと思えます。



講師の池田玲子さん



質疑応答の様子